

現状

短期(3年後)

中期(6年後)

あるべき姿

ステージ

1

昨年度出た意見等

- ①時間的、体力的負担が大きく訪問診療の参入に踏み出せない
- ②主治医・副主治医制がすまない。
- ③地域医療支援病院、在宅療養支援病院、在宅医療後方支援病院の認識が十分でなく、機能が十分発揮されていない。
- ④入退院における病診連携に明確なルールがない
- ④訪問看護ステーションの活用、連携が十分でない

提供体制

- 訪問診療を実施する診療所数 ○○
- うち在宅療養支援診療所数 ○○
- 訪問診療を実施する歯科診療所数 ○○
- 在宅患者調剤加算薬局数 ○○
- 在宅療養支援病院数 ○○
- 在宅療養後方支援病院数 ○○
- 訪問看護ST数 ○○
- 退院支援加算を算定する病院 ○○
- 入院機関とケアマネ連携数 ○○
- 在宅看取りを実施する診療所数 ○○

ステージ

2

課題

- ①地域の医療資源が把握できていない
- ②顔の見える関係づくりができていない
- ③在宅医療の普及促進が必要

めざす姿

(メモ欄)

課題について目指す姿・目標を記載

課題のうち具体的に取組む課題

具体的な対応策

目指す姿に近づくために、何を取組むか具体的に。評価指標を設定しておくとして評価しやすい。

- ①診療所にアンケートを実施し、訪問診療に取組む診療所を把握。医師会HPに一覧掲載。
- ②市町村単位で在宅医療協議会を設置し、顔の見える関係をつくり、地域の課題を抽出
- ③病院を中心として、近隣の医療従事者に対し、在宅医療の理解を深める講習会を開催

ステージ

4

課題

- ①後方支援体制がなく、参入障壁となっている
- ②退院支援・後方支援のルールがない
- ③市域を超えた医療連携ができない

めざす姿

(メモ欄)

具体的な対応策

- ①地域の病院の役割を明確化し、後方支援病院として取組む病院を確保
- ②退院支援・後方支援のルール作成に向けて、左記協議会を活用し、ルールづくりを実施
- ③協議会でシステムの運営を行い、圏域全体で統一したシステムを導入

- 在宅医療の需要に応じたサービス量の確保
- 在宅医療の質の向上
- 地域包括ケアシステム構築に向けた体制の整備

提供体制

- 訪問診療を実施する診療所数 ○○
- うち在宅療養支援診療所数 ○○
- 訪問診療を実施する歯科診療所数 ○○
- 在宅患者調剤加算薬局数 ○○
- 在宅療養支援病院数 ○○
- 在宅療養後方支援病院数 ○○
- 訪問看護ST数 ○○
- 退院支援加算を算定する病院 ○○
- 入院機関とケアマネ連携数 ○○
- 在宅看取りを実施する診療所数 ○○

基金事業の提案

背景

①圏域で統一したICTシステムの導入を検討。

②〇〇

課題

①病院毎に異なるシステムを導入すると、連携が非効率。

②〇〇

提案

①圏域単位で関係機関が協力し、システム運営団体を設置。
現在のICT事業においては補助対象にならない運営団体も補助対象に拡充すべき。

②〇〇

効果

①圏域で統一したシステム導入により、病診間の連携だけでなく、病病間の情報共有が効率化される。

②〇〇